は、持家が減少した、マンション建設がたため貸家・分譲住加し、全体で前年同・6%増の7万77、4カ月ぶりに増加

別では持家が9カ月減少し、11・2%減2291戸。貸家は増の3万1295カ月連続で増加し、宅は16・2%増の272戸だった。このマンションは34・6%1万0727戸、一宅は4・7%増の141戸。16カ月連続した。

化から

国交省

事の成果品をCD―に格納し、発注者にきた。オンラインって、受注者側の電への格納や郵送の作を軽減するとともに、受発注者が成果品をASPで共有できるようにし、作業効率や品質の向上につなげる。

同省の直轄業務は毎年、約1万2000件の発注があり、うち納品が必要な業務が約9000件とされる。直轄の工事では業務に先行して21年度にオンライン電子納品を原則化している。

10月に秋田で全国会議

総会で事業計画を承認

日空衛東北

全調衛生工事業協会部(小林照和支部長)20日、仙台市の江陽ドホテルで2022総会を開き、事務局に事業計画を承認し理会議などを開くと23年10月に秋田市される第28回全国会議に向けて準備を進めていくことを申し合わせた。

開会のあいさつで小林支部長は、時間外労働の上限規制適用が迫る一方で、休暇が取得しにくい現状にあることに触れ「6月に行った東北地方整備局との意見交換では、4週8休ではなく、4週8閉所を要望した」と報告した。

小林支部長

来賓として出席した同協会の小島和人副会長は「働き方改革への対応は待ったなしの状況だ。時間外労働などについてほとんどの会員企業がクリアできておらず、協会だけでは解決ができない。取り組みのため、発注者や設計者などに理解を得られるよう、東北支部の皆さんにも各方面に呼び掛けを行ってほしい」と述べた。

議事では事務局が21年度の事業報告と22年度に予定している計画を示し、承認した。22年度は、▽東北地区建築設備生産システム研究会・作業部会=10月下旬▽建築設備工事東北ブロック会議=12月1日、仙台市の江陽グランドホテル―などを行う。

議事終盤には23年全国会議の開催地である秋田県空調衛生工事業協会の阿部公雄会長が意気込みを述べた。「1年後のコロナの状況がどうなっているのか分からないが、来場者が安心して参加でき、有意義な会議にできるよう準備を進めたい」とあいさつした。

コンクリメンテ協

脱炭素社会目指し維持管理

岩手でフォーラム

コンクリートメンテナンス協会(徳納剛会長)主催の「コンクリート構造物の補修・補強に関するフォーラム2022」が9月27日、盛岡市のいわて県民情報交流センターで開かれた。「コンクリート構造物の健康寿命を延ばし、脱炭素社会を目指す」をテーマに、協会が維持管理の考え方、補修・補強技術を紹介した。

約150人が参加。徳納会長は「セメントの製造工程で多くの二酸化炭素が排出される。そのセメントを大量に使用するのが橋梁の架け替えや構造物の新設だが、使用量が格段に少ない補修、補強により構造物の健康寿命を延ばすことが脱炭素社会構築への貢献だと確信している。限られた技術者、予算で適切に点検・診断し、補修、補強などにより健康寿命を延ばすことが技術者に課せられた大きな責務と考える」とあいさつした。

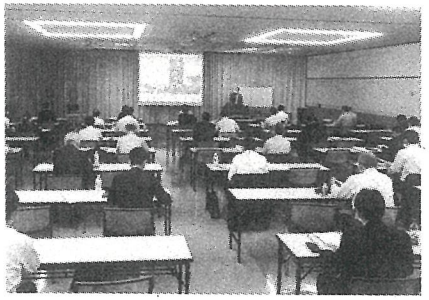
続いて、江良和徳同協会技術委員長が維持管理シナリオを考慮した補修工法選定の考え方、亜硝酸リチウムを用いたコンクリート補修、十河茂幸近未来コンクリート研究会代表が維持管理概論と小規模コンクリート橋梁の点検要領をテーマに講演した。

補修工選定の考え方では、高度経済成長期に大量に建設された社会資本ストックの老朽化が顕著になってきている現状を踏まえ、事後保全から予防保全への移行の重要性と難しさを説明。江良氏はコンクリート劣化のメカニズムを塩害、中性化、アルカリシリカ反応(ASR)に分け解説し、「劣化メカニズムと劣化過程に応じて補修工法を選定する工学的な判断と、補修した後の維持管理シナリオを考慮する時間軸の判断による適切な維持管理で構造物の健康寿命を延ばす」と語った。

ヒートポンプ・蓄熱センター

新の研究動向など解説

仙台市で省エネ社会実現セミナー



便益
伊香
▽省
(東北
剛資
ネル
▽軽
境改
の後
菱設
役員
から
ルネ
研究
ショ

INOAC
燃え広がらないから安心!
着火せず、炭化
サーマックスは接炎しても着火せず、炭化することで、内部への延焼を抑え、燃えにくい家づくりに貢献します。